

JTIA 第17回コーチステップアップアカデミー参加者意見まとめ

日本にP&Sが導入されてしばらく時間が経ち、日本テニス事業協会コーチ部会としても普及に取り組んできた。多くのテニス事業者が普及・育成において一定の結果を出してきた中で、改めてその内容を考察し今後の方向性を決めていく過渡期にきているのではないかと感じ、今回のステップアップアカデミーでは、取り組んできた成功事例や問題点を共有し、今後活かしていくことを目的として情報交換を行った。以下にその意見をまとめる。

開催日：2015年4月14日（火） 日本テニス事業協会会議室にて

話し合った内容

- ・ P&Sを導入しているか・名称を使用しているか
- ・ カラーボール・道具を使用しているか
- ・ スクール内で試合をしているか
- ・ 成果が出ている事例・よかった点
- ・ 問題点・課題
- ・ フリーディスカッション

【P&Sを導入しているか・名称を使用しているか】		参加者 41 名
・ 導入している・名称使用している	63%	12 社/19 社
・ 導入はしているが名称は使用していない	5%	1 社/19 社
・ 導入していない・名称使用していない	32%	6 社/19 社

【カラーボール・道具を使用しているか】		
・ カラーボール・道具ともに使用	89%	17 社/19 社
・ カラーボールは使用しているが道具は使用していない	11%	2 社/19 社

【スクール内で試合をしているか】

- 短いスパンでの開催
 - ・ 2か月に1度実施
 - ・ 5週目の休みにジュニア発表会という形で実施
各ボールでポイント制のランキングを付けている
 - ・ 5週目を使用して実施
 - ・ 1レッスンの中で10分以上試合をする時間を設けている
 - ・ レッド・オレンジ・グリーン各年間12回実施
ランキングシステムで年末に上位者による試合を実施
 - ・ インドアスクールの休講日に合わせて実施
 - ・ 年間通して全カテゴリーで実施
- 長期休み期間中などに開催
 - ・ 春と夏に3日間かけて実施

2日間でタイムマッチでリーグ戦をし最終日にレベル別トーナメント

- ・レッド・オレンジで春・夏に2回実施
- ・春・夏・冬に各事業所 春・夏に全事業所合同で開催
- ・レッド・オレンジ・グリーンで定期的に実施
- イベント的な開催
 - ・レッド・オレンジ・グリーンで祝日の早朝に実施
 - ・試合はイエローがメインなので、カラーボールはイベントとして実施
- 現在開催なし
 - ・今後行う予定

【成果が出ている事例・良かった点】

- スタッフに対して
 - ・スタッフがレッスンに対して考えること、工夫をしてきている
 - ・コーチが考えるようになりコーチのレベルアップにつながっている
 - ・コーチのスキルも上がった
 - ・コーチの色が出しやすい
- 子供に対して
 - ・子供達の将来性が期待出来る
 - ・子供達の楽しそうな顔、レッスンに参加する意欲の向上が見られる
 - ・集中力が高まった
 - ・意欲、戦略性が向上している
 - ・子供達の達成感、笑顔を見る機会が増えた
 - ・子供達が生き活きと楽しそうにプレーするようになった
 - ・考えながらプレーをするようになった
 - ・子供達が自ら考えプレーするようになった
 - ・G B Aにより子供の自主性、考える力があがった
 - ・成功体験を増やせているのでモチベーションがあがっている
 - ・子供達の動きが活発になった
 - ・子供達のやり取りが多くなった
 - ・何もしない子供が減った
 - ・調整力が高い子供が増えてきた
 - ・空いているスペースで勝手にやるようになった
 - ・レンタルコートを借りて自主的に練習し始めた
 - ・壁打ち等、外でもテニスをする機会が増えた
 - ・従来型のレッスンとP & Sで育った子との差が歴然としてきた
 - ・プロ選手に興味を持ち始めた
 - ・子供達の試合へのモチベーションが高まった
 - ・指摘が減り、問いかけが増えた

●保護者に対して

- ・保護者の方とのコミュニケーションが多く取れるようになった
- ・レッスンをしている保護者の方が体験申込みから入会

●営業的側面

- ・フットサルスクールとの兼用でコートを使うため週4日のテニススクールだが、非常に入会率が高くなった
- ・コミュニケーション増加で紹介が増えた
- ・休会するジュニアが減った
- ・体験に来た子供もその日からすぐテニスができ、入会率が上がった
- ・ボールのステージを変えレッスンをを行うため、クラス分けがしやすい
- ・ボールごとにレベルが分けやすく、ボールごとに大会が開きやすい

●レッスンに対して

- ・レッド・オレンジ・グリーン・イエローと進度の段階が緩やかになりよい
- ・レッドステージでの戦術が豊かになった
- ・球出しからP&Sドリルまで子供が飽きなくなった
- ・道具によるストレスがなくなった
- ・大人のクラスへのフィードバックができています
- ・フォアハンドが両手から片手で打つ子供が増えた
- ・コーチとの会話が増えた、発言できる雰囲気になった
- ・レッスン中のラリーが増えた。
- ・カラーボールでゲームすることにより成功率があがる
- ・体験当日からラリー、ゲームが行える
- ・子供達にあった指導ができる
- ・大会ができるようになった
- ・子供同士の打ち合い、試合が増えた・試合への参加率の増加
- ・ラケットを振り回してしまう子供が減った
- ・子供達同士のラリーの回数が増えた
- ・導入が格段にしやすい・技術の習得が早い

【問題点・課題】

●スタッフに対して

- ・現場のレベルが追い付いていない
- ・コーチ次第になってしまうので、クオリティの維持が難しい
- ・学生コーチの能力向上が課題
- ・若いコーチのコーチング能力不足　ただ単に打たせてしまう
- ・コーチの力量・経験値で相当な差が出る（人間性も含め）
- ・個々のパーソナリティが重要になる

●レッスンに対して

- ・ P & S の段階的指導法があれば誘導できる
- ・ 型がなく自由すぎて難しい
- ・ 子供の指導者を見る目も肥えている
- ・ コーチが不在でも子供達同士でやってしまう
- ・ 統一感が出しにくい
- ・ 指導感が足りない
- ・ 体験者への対応が難しい
- ・ コーチングとティーチングのバランスがうまく取れない
- ・ 多人数への対応
- ・ 風が強い際にミニネットやボールが飛ばされてしまう
- ・ 正面向きでラリーしてしまう子供が増えた
- ・ 習得度にばらつきがあり、クラス内でレベル差が発生してしまう
- ・ フォームが安定せず、レッドボールでアウトしてしまう
- ・ 低学年で極端にうまくなる子供が出たときにレベルの飛び級システム
- ・ コーチの色が出しやすい分、レッスン内容が違う
- ・ スライスだけでプレイする子を矯正するのかなど、どこまで個性を尊重したらいいのかが分からない

●導入に際しての問題

- ・ 導入当初、経験のあるベテランコーチや経営者に理解が得られなかった
- ・ スタッフが P & S に対する理解を得ることが難しい
- ・ スタッフが自分が育った環境同じように教えたがってしまう
- ・ ボールフィールド中心から G B A への変化が難しい
- ・ P & S で本当にうまくなるのか？飽きないのか？
- ・ プログラムを保護者に説明する際の説明が難しい
- ・ 保護者の方からフォーム指導へのクレーム・要望がでた
- ・ 保護者の方とのコミュニケーションの取り方が難しい
- ・ 道具の物量が足りない
- ・ オレンジとイエローしかないのでグリーンボールの使用を検討
- ・ 体験に来た保護者に理解してもらえない時がある
- ・ 入会数は増えているが P & S を導入した結果の実際の退会率が改善されてはいない

【フリーディスカッション】

●グループ内で出た質問等→それに対する意見

- ・ 保護者への理解を得る取組
→フリーイベントの開催
隣のコートで保護者にまったく同じレッスンを実施
- ・ コーチングスタッフの育成
→興味を持ったスタッフから徐々に浸透させる
施設のトップに立つものが強く方針を定めて惹きつける
- ・ スタッフへの研修

見て真似してもらおう事とレッスン後のフィードバックを繰り返すこと

統一のテストを作成しレッスン技術の均一化を図る

コーチを各レベルにまんべんなく配置し進級イメージを持たせる

・フォーム形成について

→振れなくなる子供には・・・振らざるを得ないシチュエーションを作る

逆にたくさん飛ばした子供の勝ちとして、振る状況を作り出す

フィニッシュポーズだけを意識させる

状況によっては素振りをしてよいのでは

・どんな打ち方でもいいのか？

P & Sなので基本的にはフォームのことはあまりない

スクールによってはフォーム矯正クラスがあり問題ない

子供は気にしていないが、保護者がフォームを気にしすぎている感じがする

本来の楽しむという目的から離れるケースがある

・片手バックはありかなしか

→特にダメという指導はしない

・従来の教えるレッスンとGBAレッスンの割合

→基本はGBAレッスンだが狙ったところに飛ばすためのフォームなど矯正はボールフィードで

・レベルアップの基準の難しさ

→身体の大きさが判定の基準というスクールが多く、工夫してレベルアップカードなどを

付けているスクールもある

・レベル差対応について

→グリーンのクラスでもレッドを使ったメニューを入れてクラス内の差を縮める

レベルが高い子をダウンサイジング出来るか？レッドでも目標を持たせる

クラス内で子供の習得度によって目標を変える

出来る子には更なる課題を与えるべき

・これからP & Sの考え方でラリー中心のレッスンにするのか従来どおりの球出し中心

でレッスンをしていくのか

→ラリー中心ならボールとの距離感、ラリー力はつくがフォームがばらつく

球出し中心ならフォームはきれいだが、ラリーすると全然続かない

どちらがいいのかは結論がでない

・年齢や性別で見たとき、低学年の男女、高学年の男子はわいわいテニスをするが、高学年の女子の一部が同年代と固まってじゃべってばかり

→無理にみんなでテニスさせるのではなく、その同年代同士でテニスさせる

●グループ内で出た意見

・P & Sのプログラムはとても素晴らしい

・テニスをスタートさせるツールの一つとして使うべきだと感じる

・従来のレッスンスタイルとP & Sの良いところどりし、オリジナリティを検討している

・コーチは辛抱強く見守ること、環境を与えることが仕事であると感じる

・関西はP & Sが遅れていて、関東は他社間での交流があり素晴らしい

・「遊戯・球技・競技」というくくりでレベル設定してはどうか

- ・女子と男子でものごとをまねる能力に差がある
- ・ボールを変えてラリーを見せると保護者が納得する
- ・ラケットサイズはフロントから変更の促しを
- ・コーチの能力が本当に問われる
- ・P&Sとは、教えるではなく気付かせることである
- ・P&Sを導入しているからと言ってボールフィードをしていけないわけではないむしろ目的を持ったボールフィードをすることは必要である

【考察】

P&Sを導入しているか・名称を使用しているかという問いに対して約 32%が導入していないと答えているのに対し、カラーボールや道具は使用していると 89%の事業者が使用していると答えている。このことから今まで各協会などでセミナー等の普及活動を行ってきたが、本質的な理解を得て取り組んでいる事業者はまだまだ増える可能性があり、十分に周知、普及をしているとは言えない現状であると推察できる。

また、スクール内で試合を実施しているかという問いには頻度や内容の差はあるにせよ、1 事業者を除きカラーボールでの試合を実施しており、テニスという競技において「試合」というものの重要性に関しては高い意識が感じられる一方、JTA管轄の 10 歳以下の公認大会がないことに対して事業者任せになっている側面が浮き彫りになっている。このことはテニスの取り巻く環境の厳しさ、少子高齢化を迎える今後の日本の現状を鑑みて、試合制度の再考・構築を協会、事業者ともに取り組んでいく必要があると考える。

今回のセミナーのメインのテーマでもある実施してきた結果として成果がでた事例・良かった点に関しては、その反対にある問題点・課題と表裏一体の答えとなった。具体的には、スタッフに対して、「コーチが考えるようになり、コーチのレベルアップにつながっている」という意見に対し「現場のレベルが追い付いていない」「若手コーチの能力不足」といった意見がでてくる。

また、子供達やレッスンの内容に対して「子供達の意欲が上がった」「何もしない子供が減った」「レッドステージでの戦術が豊かになった」といった意見に対し「型がなく自由すぎて難しい」「指導感が足りない」「フォームが安定せず、レッドボールでアウトしてしまう」といった意見がでてくる。この意見の差は導入した事業者が感じたメリットと、導入したが、本質的に理解ができていない状況や導入をしていない事業者としての意見の差と感じられる。各意見を見ても、良い点として挙がっている意見の多くに子供達に対する変化やテニスのプレーに対するメリットがあがっているが、問題点としてあがっていることには、レッスンや運営に関することが多い。

P&Sのプログラム自体、子供達の成長を促し、テニスの楽しさを伝えるものであることは明白であり、誰の為のものなのかということを考え、そのメリットを活かすことを最優先に考えることで多くの問題・課題は今後解決できることであると考える。もちろんそのために協会・各事業者が強い思いを持って今後の方向性を話し合っていくことが必要である。

最後に行ったフリーディスカッションで出ているような、レッスン内容に関して、スタッフの育成、保護者の理解等のことに対してより深く話し合う機会を設けることができればいいのではないかと考える。